



▲前期リーグで首位に立ったピーナッツ千葉。「SHOWCASE」優勝当時のメンバーから霜出佳奈が抜け、新たに高田浩規と本間成美が加わった

千葉が第4のクラブチームに

出場チームは表①の6チーム。昨年12月の開幕記者発表会の時点では湘南、福岡の2チームとともに io.LEAGUE組織委員会編成のモデルチームとして発表されていたチーム千葉は、開幕前に(株)アイキョーホーム(重見康浩代表)のスポンサーが決まり、第4のクラブチーム「ピーナッツ千葉」として参加することとなった。

初年度は前・後期制で、この6チームが東西各3チームに分かれて各カード3試合の総当たり戦を行い、後期最終日(8月31日)に東西の1位チーム同士がチャンピオンシップを懸けて対戦する。勝敗は1試合3Gのポイント制(1Gごとの勝ち点2、引き分けは各1。さらにトータルスコアの勝利チームには4ポイント、パーフェクト及び800シリーズ達成時には5ポイントを加算)で争われる。

各チーム1日1試合、計4試



▲個人タイトル争いも注目的。総ストライク数は藤井信人(イグナイト東京)が24でトップも、ストライク率、フレームアベレージでは徳久恵大(チーム福岡)の後塵を拝している

合が行われた前期リーグの結果は表②のとおり。総合順位ではピーナッツ千葉、イグナイト東京、ゼクス大阪神戸の3チームが3勝1敗で並んだが、30ポイント獲得の千葉が暫定首位で折り返し、同じ東地区の東京が1ポイント差で追走。大阪神戸は5ポイント差の3位ながら西地区の1位で、このままいけばチャンピオンシップの出場権が得られる。

カレントスコアが熱戦を演出

今回は一会場(池袋ロサボウル)に全チームを集めての集中開催ながら、来場観戦は不可。YouTubeチャンネルの配信(正田晃也、渡辺けあき、土方捷の3プロがカケ合いで実況解説を務めた)のみとなったが、チャットの書き込み等を見ると、概ね好評だったようだ。

フレームごとに得点が確定するカレントスコアリングシステム(ストライク30点、スペアは1投目のカウント+10点、オープン2投の合計カウント)が終盤大逆転の熱戦を演出したり、途中交代のプロがゲームの流れを一変させたりする今リーグの試合方式はたしかに新鮮で面白い。また、普段は個人競技の公式戦でしのぎを削るトッププロ同士がチームを組んで戦う様子は、まるでプロ野球の

io.LEAGUE2024(前期)レポート

**ピーナッツ千葉が首位で折り返し!
1ポイント差でイグナイト東京が続く**

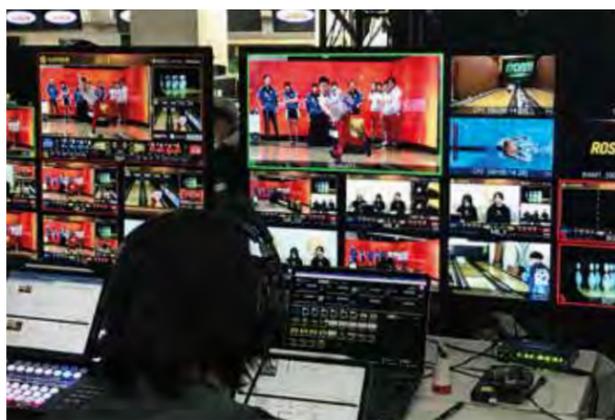
(公社)日本プロボウリング協会(JPBA)がプロボウラーの認知度向上と市場規模の拡大を目指して立ち上げた新機軸の男女混合チーム戦「io.LEAGUE」がついに開幕。前期リーグは1月16~19日の4日間、出場6チームが都内豊島区の池袋ロサボウルに会して集中開催され、熱戦の様相が連日YouTubeチャンネルでライブ配信された。

オールスターゲームのように華やかでもあった。

「ボウリングは自らプレーしてこそ楽しいスポーツというのが世間一般の認識だと思いますが、観ていただくだけでも楽しめるポテンシャルがあることを

再認識しました」と、自身がゼクス大阪神戸のオーナーでもあるJPBAの谷口健会長は言う。

「ゴルフでも、プレジデントカップのような大陸別対抗のチーム戦はものすごく盛り上がる。ioリーグも地域を代表したカタチのチーム戦で、みんな自分にいい意味でプレッシャーをかけながら最高のプレーを見せてくれました。とにかく多くの人に観ていただきたい。私があればその素晴らしさが分かると思います」



▲オペレーションブースはコンコースに設けられ、関係者もそこでモニター越しに戦況を見守った。配信面では、アプローチ後方に設置された大型のデジタルビジョンが投球者のチームカラーに合わせて変わる色彩演出が目を引きつけたが、ボウラーズベンチがなく、投球の順番を待つプロがゲーム中立ちっぱなしだったのはかなり気になった

の視聴者数は1年間で延べ19.1万人。後日この数字は優に上回るだろうが、話題が業界の外にまで届いているとは言い難い。8月開催の後期リーグに向けては絶えず「新着情報」を

風景をゲーム中に随時流すことなども一考してほしいと思う。

また、開幕前に募ったクラウドファンディングは500万円目標額に遠く及ばず、96万円の支援で終了した(支援者数58人、達成率19%)。これは業界外以前に業界内でも今リーグの主旨があまり理解されず、大きな支持を得ていないことを示す数字だろう。身内がソッポを向いている? プロジェクトに、一般のボウリングファンが心動かすはずもない。

「ioリーグは業界外に向けての発信を主眼としたプロジェクトで、始まったばかり。これから日本全国にクラブチームを作っていく過程だということを、業界の人にも理解してもらわないといけない」と谷口会長。さらに「今もいろいろな媒体にアプローチしているし、各方面にサポートを求めて動いています。まだ実りは少ないけれど、一步一步着実に、やがて大きく飛躍するために頑張っていきたい。ioリーグは可能性の塊だと、私は思っていますから」と、不退転の決意を示した。



▲練習ボール中の会場風景。対戦レーンは撮影機材とセットで狭く仕切られ、実況ブースはアプローチ後方に置かれていた

後期リーグに向けての課題は?

前期リーグの視聴者数は、2週間経った2月2日20時の時点で延べ16.3万人。ライブ配信は1年前の「SHOWCASE」同様、連日2000人前後で推移していた。

ちなみに、「SHOWCASE」

発信し、一般メディアの耳目を集める努力が必要だろう。

盛り上げるためには、やはりギャラリーの声援も不可欠だ。P★Leagueのように対戦レーンの左右に観覧席を設けたり、資金面の問題はあるだろうが、クラブチームのある地域ではパブリックビューを開催し、応援

表① io.LEAGUE2024 出場チーム

東	ピーナッツ千葉	小林哲也・森本健太・高田浩規・戸辺誠・本間成美・川崎由意・岩見彩乃
	イグナイト東京	姫路麗・藤井信人・大嶋有香・藤村隆史・坂本かや・坂本就馬
	チーム湘南	永野すばる・斉藤琢哉・甘糟翔太・名和秋・小久保実希・本橋優美
西	ゼクス大阪神戸	小原照之・安里秀策・大久保雄矢・寺下智香・久保田彩花・石田万音
	チーム福岡	川添奨太・原口優馬・徳久恵大・藤永北斗・中野麻理子・中島瑞葵・原野萌花
	愛媛オレンジサンダーズ	山本勲・山下昌吾・和田秀和・三浦美里・山田幸・浅田梨奈・幸木百合菜

表② io.LEAGUE 2024前期結果

順位	チーム	ポイント	勝	敗
1	ピーナッツ千葉	30	3	1
2	イグナイト東京	29	3	1
3	ゼクス大阪神戸	25	3	1
4	チーム湘南	14	1	3
5	チーム福岡	12	1	3
6	愛媛オレンジサンダーズ	10	1	3